

# 山口七夕会通信

VOL.37

2021年

1月27日

発行：山口市七夕会事務局  
(山口市企画経営課内)  
山口市亀山町2番1号  
TEL：083-934-2746  
FAX：083-934-2642



揮毫 山本直和(坦蕩)さん  
(山口七夕ふるさと大使・会員 No. 79)

～ゆっくりでも、しっかりと前進する年に～



新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルスに振り回された2020年、忘年会、帰省、新年会なども見送られ、例年とは異なる年末年始を迎えられた方も多いでしょう。七夕会総会を始めとする多くのイベントも中止となりましたが、関係者の工夫とご尽力により、一部のイベントを実施することが出来たのは何よりでした。インターネットを利用したイベントも増えていますが、やはりお互いに顔を合わせるイベントは大事にしたいところです。

2021年、コロナ禍は再度の緊急事態宣言発出をもたらしましたが、ワクチンの接種等により、以前のように会員が一堂に会し、お互いの元気な顔を見て安心し、近況を確認しあう機会が戻ってくるよう期待します。

さて、2020年の流行語大賞は「3密」でした。日本では大切なことを三つにまとめると相手に伝わりやすいと言われており、いろんな場面で「3〇」が使われます。もっとも、私がすぐに思い浮かぶ「3」は「日本3大名塔」、「日本3大火祭り」と、想いはふるさと山口から離れません。

山口七夕会にとってのゆかりの数字は「7」。「7」といえば、2021年7月1日より、七つの市町でつなぐ七色の回廊「山口ゆめ回廊博覧会」が開催予定です。山口県央連携都市圏域(山口市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、島根県津和野町)でおこなわれる多様なイベントの集合体です。美しい伝統・文化や自然、食を紹介するなど、圏域の魅力が全国に発信されます。郷土山口市の発展に寄与することを会の目的の第一に掲げる七夕会。会員の皆さん、コロナ感染予防に十分意を用いながら、地元山口の会員と山口を離れた会員とが連携し、山口市をしっかりと応援していこうではありませんか。丑の年にふさわしく、歩みはゆっくりでもしっかりと明るい方へ前進する年を、山口市に想いを馳せながら、明るく健やかに過ごして参りましょう。

令和三年(2021年)1月

山口七夕会会長

<新会員の皆さん(個人会員番号・氏名)>

個人:783・板井川 浩さん 784・大谷 龍夫さん 785・益本 圭太郎さん 786・熊木 眞由美さん  
法人:株式会社アドギルド・ジャパン 代表取締役・浦前 忠彦さん

令和2年12月末現在の会員数:個人会員・383人 法人会員・21法人

<表紙の言葉>

コロナ禍で、苦境にあって迎えた新年です。誰もが夢を失うことなく、希望に向かって挑戦できる年になって欲しいとの願いを込め、年初の七夕会通信の表紙の文字に「夢」を選びました。揮毫いただいた山本会員に心より感謝申し上げます。(編集長)

< 目次 >

頁1	表紙
頁2	八木会長挨拶/新会員の皆さん/表紙の言葉
頁3	目次/山口弁で一言
頁4	【巻頭言(寄稿)】「かなめ会東京支部について」(久永洋子さん)
頁5	【報告】令和2年度 本部 秋の講演会・交流会
頁6	【連載コラム】 山口市内の面白名所発掘3 「山口市小鯖の海軍秘匿飛行場」 (古谷眞之助さん)
頁7	【寄稿】「一の坂川ひな流し」(益本圭太郎さん)
頁8	【寄稿】「ご挨拶」(伊藤満宏さん)
頁9	【寄稿】「故郷 湯田と権現山の思い出 “私の STAND BY ME”」(神原昭彦さん)
頁10	【寄稿】「雪に昔を想う」(渡邊史信さん)
頁11	【寄稿】「高杉晋作の辞世と長唄“越後獅子”」(奥原保さん)
頁12	【リレーコラム】「ふるさとの味めぐり “みほり峠 本町店”」(村中正司さん)
頁13	【寄稿】「レノファ山口観戦記」(大田宗さん)
頁14	【山口市役所・定住促進課からのお知らせ】「県央7市町オンラインツアー」
頁15	【事務局より】七夕会バッジ購入者募集、原稿募集、法人会員募集
頁16	【事務局より】イベント案内、編集後記、事務局より

< 山口弁で一言 >

夜中いや いきなりいや いつあいちよるんかちゆうて LINE  
あんたとは はあ3年ぐれえ おうちよらんそにどねえしたそかね  
あん頃 わしらあはやあ どねえなことでもやれる思いよったっちゃ  
2人で海にいつちやあ ようけ写真撮ったいね

じゃけど見ていや 今のわしを へんくうになったわしを  
人を傷つけちゃあ えっと泣かせてしもうても なんもよう感じんっちゃ

よいよあんたを求めちやおらんちゆうても へりにおっちゃってと思ひ出すそいね  
あんたのドルチェ&ガッバーナの その香水のせいじゃけえね

作者:長州エイト

## かなめ会東京支部について

久永 洋子（会員No.232）

かなめ会東京支部は、昭和45年に福田ハヤ様が立ち上げられ平成4年に亡くなられるまで20数年間、かなめ会の大黒柱として献身的に支え続けられました。その後姿を、私は忘れることが出来ません。いつも明るく強く会員を包み込むような温かいお方でした。

私は、仕事を持っており多忙でしたが、昭和52年頃から、かなめ会に出席するようになりました。そしてかなめ会会長福田ハヤ様とご縁ができ、57年には防長倶楽部にもお供を致しました。その後、松濤町のご自宅やダンスパーティーとか安倍晋三先生パーティー等にお呼び頂きました。佐藤寛子夫人や宇野千代女史との会食等など……。



宇野千代氏を囲んで 後列右から二人目 福田ハヤ様

一方、私は平成5年に桜圃会東京支部長（山口県立大学同窓会）をお引き受け致しました。当時、桜圃会も運営上行き詰まっております私は一年当番方式に切り替える事を提案し、規則を改正して、一年一回の総会に必ず講演会を実行するよう致しました。その後の錚々たる桜圃会の皆様方のご尽力もあって、この方式が定着して100名近く集まる大きな同窓会として現在まで26年間続いております。

ところでかなめ会は、福田ハヤ様が平成4年に亡くなられその後、杉山様が8年間続けられたあと休眠状態となり、かなめ会存続如何の相談の結果、高女最後の卒業生である私達が引き受ける事となります。2年後中央高校3回生本多様が続けられましたが、2年で辞めなさいとどこからかの指示が出て次の引き受ける方が見つからず困惑しておられました。或る日、七夕会に出席していた私に近づいて来た女性が中央高校5回生ですとおつ

しやり「私達はかなめ会を続けたいので久永さんの桜圃会方式を教えてください」とたのみこまれたのです。結局、私は4回生の方から1年当番方式で続行できるよういちら体制を整えながら毎年総会を実行していきました。しかし、常にかなめ会続行についての反対者があり、後輩方は電話攻撃で苦しめられる状況でした。

そういう中で、中央高校4回生、5、6、7、8と5年間の間に会則の全面改正を作り、様々な体制を整えてその年の学年の代表支部長と協力しあい毎年総会を行って来ました。そして遂に賢明なる9回生の出現となるのですが、それまで一人で大奮闘してきた事が私の記憶に残っています。

9回生支部長、副支部長は立派でした。ここで私は安堵の胸をおろしお任せして手を引く事ができたのでございます。その後、学年ごとの集まりが纏まらなくなり続行しづらくなって行きました。そこで本多支部長から「あと5回でかなめ会東京支部総会50回が来るので終わらせたい」という相談があり、現状を察して私は承諾しました。

今、中央高校は男子が増えていて彼らが入会されることを期待しましたが結局無理で希望を失ってしまいました。かなめ会はもともと山口高女の会でございます。一旦休会してまたいつか同窓会を必要と考えた時、新しい方法で復活もでございます。遠く故郷を離れ社会に出て東京に暮らして、同窓会という繋がりがどんなに心強いことでしょう。続いて欲しい！ そうなればここまで私が懸命に福田ハヤ様の意志を繋いできた事が役立つと思うのでございます。

若い後輩方ご理解くださり熱意をもって実現されんことを心から祈りつつペンを置きます。



山口高女の運動会風景 昭和23年頃 左端は清川妙先生

## 令和2年度 本部 秋の講演会・交流会 報告

本部・副幹事長 藤井 謙志 (会員No.611)

世界的に猛威を振るうコロナ禍にあつて、東京、山口でもコロナ感染者が多く出る中、様々な行事、イベントが延期や中止を余儀なくされる状況ではありましたが、山口七夕会東京本部“秋の交流会”は2020年11月14日(土)、東京飯田橋のインテリジェントロビー“ルコ”で開催されました。開催にあたっては数か月前から、楢山本部長を中心に役員の間で慎重な検討と準備を行い、当日は万全の態勢での開会の運びとなりました。ご



参加会員の皆さまにはいつもとは違ったご不便をおかけすることもあったかと存じますが、特別な状況下であることへのご理解とご協力を賜り、円滑に交流会を進めることができましたことにまずもって御礼申し上げます。

当日の会場入り口では、非接触型体温計による体温自動測定とアルコール消毒、マスク着用の確認ののち入場いただき、第一部の座席も間隔をとってご着席いただきました。開会までの間、会場スクリーンには講演に因んだ“ブルーインパルス”の動画が流れ、講演開始までのムードの盛り上げとともに会場での会話を少なくする工夫がとられました。当日は第一部講演会42名、第二部(懇親会)は37名の会員の皆さまのご出席をいただきました。



開会にあたって八木会長のご挨拶では「東京世田谷での祭りから始まった山口七夕会は、やはり“会員同士が直接会”ことが大切。コロナの恐怖の中、入念な準備と慎重な判断で開催に漕ぎつけました。」「山口県の村岡知事が山口県はコロナ感染者数が少ないと自慢されていましたが、最近の県内の感染者数増加は心配。ただし、重症者数はまだ少ない状況とお聞きしています。」とのお話がありました。

講演は「ブルーインパルスの抑止力」と題して本部副幹事長である西村弘文さんに、元ブルーインパルス隊長の経験に基づく資料と動画を使って1時間以上にわたり平素は聞けない貴重なお話をいただきました。西

村さんは宇部市のご出身で山口大学附属山口中学校卒、宇部高校、防衛大を経て航空自衛隊で戦闘機操縦士となり対領空侵犯措置等の任務のほか指揮官・幕僚として勤務されました。2009年から2年間、自衛隊山口地方協力本部長を務められておりましたので、ご存じの方もいらっしゃるかと思います。

講演は、ブルーインパルスにとって「運用能力」「操縦技術」「整備技術」「起動展開能力」が重要であり、そのことを海外の在日武官へ示すことが抑止力に繋がる



という主旨のお話で、実際のパイロット経験者の方ならではの具体的な内容も含んで盛り沢山。お話の後の質疑応答でも多くの方が手を挙げておられました。

第二部の懇親会でもコロナに配慮し、ひとテーブル3名掛けのレイアウトにて開始。冒頭、渡邊副会長の発声で昨年他界された原野和夫初代会長と山縣正彦前幹事長への黙祷、献杯から始まりました。新たに山口県東京事務所長に就任された繁永俊之顧問やふるさと山口本部の瀬川本部長もご参加くださいました。新たに山口七夕ふるさと大使に任命された梅田圭良さん、久重剛志さん、本多圭子さんのお三方の紹介、関周大使からCD2,000枚分の印税の七夕会への全額ご寄付、新入会員藤井尊弘さん、新入法人会員浦前忠彦さんのご紹介、来春予定の春の交流会、お花見ウォーキング、八木重二郎杯ゴルフコンペのご案内へと続き、ブルーインパルス



関連グッズ賞品の福引きで盛り上がった後、シンガーソングライター・ちひろさんの“ふるさとの風”を抑えめの声で合唱し、最後は武内副本部長の「また元気にお会いしましょう。」とのご挨拶で締めさせていただきました。

今後のコロナの収束状況によりますが、本部においては次回“春の交流会”を3月27日(土)に予定しており、また皆さまとお会いできることを楽しみにしております。それまでどうぞお元気で過ごしてください。

## 山口市内の面白名所発掘 3 「山口市小鯖の海軍秘匿飛行場」

古谷 眞之助（会員No.607）

山口市から防府市に向かうと、程なく小鯖地区に至ります。この付近を走っていて気づくのは、山間にありながら道路がきれいに一直線に延びていることです。ライダーを操縦している癖で、これなら滑走路の代わりになるなあ、と漠然と思ったことが何度かあります。しかし、よくよく調べてみれば、かつてここには、実際に滑走路が存在していたのです。



【小鯖の飛行場のあった付近。奥は小鯖峠、下は地図】

小鯖海軍秘匿飛行場が建設されたのは禅昌寺から程近い場所です。昭和20年6月、防府市内の旧制中学校生徒や防府市民、小鯖村民も動員されて「多い時は約500人が建設作業に従事した」と記録にあります。この作業に参加した防府中学生徒だった中山氏によれば「開始から約3週間で



完成したと記憶している」とのことなので、大変な突貫工事であったようです。建設途中でも「偽装隠蔽」には特にうるさく、空襲警報が発令されるやいなや作業は即中止となり、動員された生徒はそこかしこに予め用意された柴木を滑走路に置いてから一目散に山に駆け込んだそうです。建設方法は、①まず付近の土手を崩して整地する。②山口市内の御堀橋付近の河原からぐり石を採取し、トラックなどで搬入して敷き詰める。③その上に孟宗竹を並べ、さらにその上に付近の山から採取した真砂土を敷いて、④その上をローラーで転圧して完成、というものでした。そういう工法だから3週間で完成したのでしょう。滑走路が完成していたのは、戦後昭和22年(1947)に米軍に

よって撮影された航空写真を見れば一目瞭然です。その写真の無断転用はできないので、地図に位置を示しておきます。そもそも小鯖飛行場は、特攻機を発進させることを目的としたものでした。お気づきだと思いますが、佐波山トンネルに近い場所ですから、山が邪魔になるため飛行機は北に向かって離陸するしかありません。逆に着陸は北側からしかできません。しかし、特攻機ですから一旦離陸すれば着陸など不要との考えだったと思われます。本当に悲惨なものです。学徒や市民、村民を動員して突貫工事で完成したのは、長さ600m、幅30mの簡易転圧、つまりローラーで突き固めただけの滑走路でした。そして、滑走路脇にすでに「コの字」型の掩体壕が作られていたとのことなので、付帯施設も同時並行的に進められていたと思われる。燃料置き場も鳴滝付近の松林の中に設けられていたとの証言があります。【トンネル出口側から旧滑走路を見る】



では実際にここから飛び立った特攻機はあったのでしょうか。防府中学のOB会「防一会」の方たちは「特攻機・桜花が飛ぶとのことであったが、1,2回は試験的に飛んだのはよいが、山口の双子山に衝突してしまった」と証言され、また、「小鯖海軍会」の武安氏の話では「一回だけタッチアンドゴーの状態で離着陸は行われたが、実戦には間に合わなかった」とのことです。専門的なことを言わせていただければ一式陸攻に吊るされて出撃する桜花が出撃するには長さが不十分だと思われますし、トンネルに接近したこの飛行場ではタッチアンドゴーはまず無理と言えます。結局のところは「試験飛行は行われたものの、特攻機が実際に飛ぶことはなかった」と結論づけて良さそうです。そもそも、すぐ近くには陸軍防府飛行場があるのです。こういうところにも、空しい陸海軍の縄張り争いを見ることができます。

しばしば利用する国道262号線沿いには、もはやかつての飛行場を思わせるものは何も残っていません。しかし、学徒、市民、村民の勤労奉仕によって急造された海軍秘匿飛行場があったこと、そしてそこからは、幸いにも特攻機が一機も飛び立たなかったことを記憶にとどめておく必要があると思うのは、筆者一人ではないでしょう。

## 「一の坂川ひな流し」

ふるさと山口本部 益本 圭太郎 (会員No.785)

山口七夕会創設以来の会員(No.1)でしたが、10年前、諸事情によりいったんは退会し、今回、私たちが行っている一の坂川でのひな流しのことを知っていただくとともに、ご協力をいただきたいと思いますと思ひまして、再入会しました。

私は、2年半前に東京生活に区切りをつけ地元山口市にUターン、山口市の文化、自然を享受する日々を送っています。

皆様、徳地和紙はご存じですか？

徳地和紙は、山口市徳地地域で、大内氏の時代より生産されている歴史ある和紙です。鎌倉時代初期、東大寺再建の材木調達のため訪れた重源上人が製紙法を伝えて始まったともいわれています。

江戸時代には、防長三白として藩の重要な産物で「関西一」と言われるほどでしたが、明治末期から洋紙が台頭し始めたため、4000戸あった生産者が現在では2戸しか残っていません。わずかながらも伝統が受け継がれており、山口市の無形文化財に登録されています。

この徳地和紙を愛する数名が始めたのが「一の坂川ひな流し」です。

ひな流しは、古来から人形にけがれを託して流し、無病息災を祈る行事でした。一の坂川ひな流しでは、山口市の特産である徳地和紙で「雛とひな舟」を制作し、一の坂川に流し、後日古熊神社でお焚き上げしています。

2020年3月29日(日)には第5回を開催し、市民300人の方々にひな流しを楽しんでいただき、多くの方々がその様子を眺め、桜咲く春の一の坂川を楽しんでいただきました。

今後も春の風物詩として皆様に楽しんでいただくよう頑張りますが、ひな舟等の制作には

徳地和紙とその加工(染色、硬化、防水)に少なからぬ費用がかかる一方、多くの方に楽しんでいただくためには参加費用(300円)の値上げをすることができず、徳地和紙の継承を願う者だけでは限界に達しています。

そこで、故郷山口に想いを馳せる方、また、地元で発展を願う方々に一口1000円以上(年間)の応援をいただければ大変心強く思います。ご協力いただける方は、下記連絡先にお知らせください。どうぞよろしくお願いいたします。(なお、ひな流しの様子は、YouTubeで「一の坂川ひな流し」を検索いただくとご覧になれます。)



また、山口七夕ちょうちん祭りに関して一言申し述べます。商店街では、店舗数の減少や高齢化等によりちょうちんの取り付け・点灯の人手の確保に苦勞されています。山口七夕会の地元在住者が、これを手伝ってはどうか。七夕会の設立の趣旨に沿うとも思います。故山縣前幹事長も賛同されていましたが、実現することなく天国に召されました。

(連絡先) 益本

090-7189-7737

[keitaro@mars.dti.ne.jp](mailto:keitaro@mars.dti.ne.jp)

## ご挨拶

ふるさと山口本部・本部長補佐  
伊藤 満宏（会員No.567）

明けましておめでとうございます。会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか、お伺い申し上げます。

“ふるさと山口本部”で本部長補佐を務めております伊藤と申します。

私は令和元年、東京高輪で開催されました「山口七夕会定時総会」に初めて出席させて頂き、“ふるさと山口本部”での活動報告等をさせて頂きました。その節には、ご出席の皆様方それぞれへのご挨拶が出来ませんでしたこと、この場をお借りして深くお詫び申し上げます。

また皆様方におかれましては、世界規模で拡大した新型コロナウイルスの影響下、明けても暮れてもコロナ・コロナの恐ろしい状況に遭遇され、なんだか心落ち着かぬ日々を送っておられるのではないかと案じております。

昨年中は、“ふるさと山口本部”でもコロナ禍の影響は深刻で、例年開催しておりました行事を全て中止とさせて頂きましたこと大変心苦しく思っております。これは役員において会員の皆様の安全・安心を最優先した結果であり、何卒ご理解を賜りたく心より願っている次第でございます。

さて、去年は延期されてしまったオリンピック・パラリンピックですが、いよいよ今年はその開催を迎えることとなり、山口出身の選手も出場予定と聞いておりますことから、私も大変楽しみにしております。

今年はこのようなビッグイベントの年ですが、終焉が見通せないコロナ禍の中で感染拡大防止に最大限の配慮をしながら、八木会長の常々のお言葉である「東京と山口を両輪として、郷土山口の発展に寄与する。」を旗印として、全会員一枚岩の下、“ふるさと山口本部”の活動に邁進して参りたいと思っております。

今後とも会員皆様のより一層のご理解、ご支援とご協力を何卒よろしくお願い致します。

末筆ながら、会員皆様の益々のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。





## 故郷 湯田と権現山の思い出 『私の STAND BY ME』

神原 昭彦 (会員No.680)

私は高校卒業までを湯田の熊野と言うところで過ごしました。私の実家の裏手には熊野権現を祀る権現山が鎮座し、更にその右奥には名勝 山水園があり、権現山と我が家の間には前田川(正しくは錦川?)が湯田温泉街へと流れています。私が子供の頃は我が家と権現山の回りは田んぼだらけで、権現山を中心に遊ぶ場所には事欠きませんでしたので、近所の田んぼやあぜ道で鬼ごっこをし、前田川でザリガニを取り、権現山中を駆け回って隠れんぼをするのが日課でした。偶に山水園に紅白の陣幕が立てられているのを見つけると誰か有名人でも来ているのでは?と土堀の奥の壊れかけたところからコソコソ覗いたりと言うのは今だから言えるガキの悪戯だったとお許し頂ければと思います。



湯田小学校に入ってからソフトボールやサッカーにてんか?などのグラウンドでの遊びが中心になって来ましたが、学校から帰れば愛犬の散歩や近所の仲間と昔ながらの遊びに興じていました。そんな中、小学校の低学年の頃だったと思いますが、ある年に台風が山口近辺を通過し、山口市内も川の増水など少なからず被害を受けた時に権現山の裏のハゲ山と言われていたところが崩落して更に大きなハゲ山へとなってしまいました。我々子供たちにとって、ハゲ山は危険ではありますが、格好の遊び場でもあり、学校帰りによく遊びに行っては赤土で泥んことなり、母によく叱られたものでしたが、そのハゲ山が台風一過で更に大きくワイルドさ

を増し、倒木の根っこが正にワンダーランドの装いを呈していましたので、近所の遊び仲間と直ぐに『STAND BY ME』さながらの秘密基地を作ってハゲ山を絶好の遊び場所にしたのも古き良き思い出です。

中学校に上がってから放課後は部活が中心となり、塾にも通い始めたりで、なかなか権現山を駆け回る時間も仲間もいなくなりましたが、何を思ったか?近所の仲間といつも遊んでいた権現山を偶には掃除しようではないか?と言うことになり、休みの日に竹ボウキやがんぜきを持ち寄り権現山の石段や神社の境内を掃除したことがあったのですが、たまたま通りかかった方の目に止まり、『小さな親切運動?』に表彰されると言う珍事も起こりました。

高校に入学してからは更に部活に勤しむ毎日となり、権現山で遊ぶ時間はなくなりましたが、休みの日にはやはり愛犬の散歩に行ったり、子供の頃流行っていた『柔道一直線』の影響を受けて兄が買っていた『鉄下駄』を履いて石段を登ってみたり、近所をランニングした後の締めとしては映画の『ロッキー』の気分で権現山の石段を駆け上がり、頂上の境内から湯田の街中を見下ろしていたものでした。

私にとっての権現山は心の故郷であり、今でも権現様の境内から見下ろせる湯田の町並みやNTTのビル群、姫山の山容はまぶたに焼き付いており、帰省した時は必ず行ってみたい場所です。



誰にもそんな場所が有るとは思いますが、60歳を迎える私にとって今でも忘れられない心の故郷は小さくて目立たないこんな小山の権現山なのです。

## 雪に昔を想う

副会長 兼 会長代行 渡邊 史信 (会員No.364)

約60年前のガキの頃、小郡と美祢にいたが、どちらも12月の後半からはよく雪が降った。雪達磨・雪合戦・かまくら・ツルツルに凍った校庭でのスケート・竹スキー・木箱に竹スキーをくくり付けての坂くだり等子供の私は雪が大好きです。



「練炭火鉢」にかけたヤカンの番茶がチンチンと鳴っている横で、毛糸の帽子と「丹前」を着て「炬燵」に入ってミカンや干し柿・かき餅を食べながら月光仮面・ハリマオやまぼろし探偵に胸を躍らせた。曇ったガラス窓に「へのへのもへじ」を指で描き、ツーと滴が流れたらこぶしでぐりぐりとして、別の窓に移動です。寝る時は「湯たんぽ」や「豆炭あんか」を布団に入れて暖をとっていました。「アカギレ」や「シモヤケ」はオロナインを塗って毛糸の手袋をして寝て治す。台所には「かまど(竈)」があり、練炭や豆炭は「七輪火鉢」で熾していました。「夏下冬上(かっかとうじょう)」とお袋から教わった七輪に火種を置く位置も庶民の知恵でしょうか(科学的根拠があるかどうかは知りま

せん)。新聞にくるんでもらう暖かい「大判焼き(あんこ入り丸いタイ焼き)」を買いに行くのはいつもスキップで。托鉢のお坊さんが粉雪の中、網笠を被って団扇太鼓を敲きながら門づけに来たり、お正月を迎える「榊」を調子のよい声で流しながら売っていたのもふと思い出す。

お米(米穀手帳!があった)・豆腐・醤油・酢・魚も肉も量り売りで袋・鍋・瓶持参か古新聞・竹皮に包んでもらう。金属のカンカンは捨てずにいろいろな収納に。従いお風呂・竈と畑があれば家庭からゴミは一切出ない究極なエコ時代でもありました。

中学・高校時代の6年間は朝6時半前発の片道1時間30分の吉敷の大峠越えの山口までのバス通学。しばれる冬の朝は1月から2月にかけては毎年必ず積雪によるバス運行休止があり、心苦しきも学校公休2-3日は楽しみの一つでもありました。冬は学生服に学生帽・マント・襟巻き(今はコート・マフラーと言う)が正装です。当時の「国鉄バス」は道路かタイヤかどちらが悪いのかは分かりませんがよくパンクをしており、顔なじみの若い女性車掌さんや乗客は山道で降りてタイヤ交換できる場所まで押したものです。

懐かしい田舎(どんな田舎でいつの話か?!と言われそうですが)の思い出です。

## 高杉晋作の辞世と長唄「越後獅子」

副会長 奥原 保（会員No.330）

高杉晋作 号 春風東行 天保 10 年(1839 年)萩菊屋町に生まれる。松下村塾の門下生の俊秀として久坂玄瑞と並び称される。文久 2 年(1862 年)清国、上海に渡り、見聞視察。帰国後尊王攘夷運動に奔走。文久 3 年(1863 年)「奇兵隊」の創設を断行。自ら奇兵隊総督となり、軍備強化を計る。元治元年(1864 年)長府、功山寺にて回転義挙。奇兵隊を正義党として萩の佐幕派の俗論党を討つべく下関から太田、絵堂、萩へと攻め上がり戦勝。慶応元年(1865 年)徳川幕府の長州征伐軍との四境戦争始まる。晋作、遊撃の総指揮官となる。しかし戦いの最中病状悪化。吐血倒れる。慶応 3 年(1867 年)下関新地の酒屋、林尊九郎邸の離にて、正妻雅子、芸者うの、そして病床中姫島の牢に投獄されていたことを知って晋作の命で助け出した晋作の恩人、野村望東尼の 3 人に看取られて死す。享年 27 歳 8 か月。

晋作が最後にかすかに口に「吉田に・・」から、小月吉田川上流の奇兵隊創設時からの練兵場の近くに「東光庵」が有志達により建てられて今日に至っている。芸者うのは、尼僧になるのを初め受け入れなかったが、志士たちの願い強く、東光庵主として尼僧になる。

ここまでは誰もが知っていることでしょう。

晋作が絶命寸前に書いた上の句(辞世となる)「面白きことも無き世をおもしろく」側にいた野村望東尼が筆をとり、下の句を書き加えて晋作の眼前に示したといわれている。「住みなすものは心なりけり」と、目にしたかどうか絶命したのであります。

初めに少し、長唄古典の中でも名曲と云われている「越後獅子」のことを紹介します。3 分の 2 ほど進んだところで次のように謡われる。

「牡丹は持たねど越後の獅子は、己が姿を花と見て、庭に咲いたり咲かせたり、庭に咲いたり咲かせたり」。

牡丹は昔から「牡丹に獅子」、百花の王とされ、中国では、富貴の花。ここでは、地位や名誉や財産、権勢、艶麗さを表しています。

花を見て庭に咲く・・は、ここでは働く、生きる、役に立つ・・という意味でもあります。従って咲いたり咲かせたり、は働いたり働かせたり、お役に立ったり、立たせたり・・ということであって、その一時一処の姿はもつが、本来我が身が花たる真の価値には何の変りもな

く、自由自在に一度の人生も生き抜いてゆく・・という意味でもあります。

言い換えれば己が姿を花と見る・・ということは表面は、浮世の波に漂っている私であるが、実は何か次元の違う、絶対価値に裏付けられて生きている・・ということになります。

ここで考えられることは人が生きる態度、即ちいかなる価値に生きるか・・という非常に異なった二つの態度があるということです。



一つは最も普通で世間的価値観で生きる態度。つまり人間の生き甲斐が、地位、名誉、財産・・にあり、つまり人生のとらえ方が単に人間的な欲望を満たすところにある生き方、態度。この生き方が単純に悪いとか無価値であるということは言えませんが、しかし、これらは深く人間の野性的本能にあり、奪い合い、権謀術数の横行・・と人間がむしろ不幸になる場合が多いのです。

もう一つはそのような世間的な浮世の価値を必ずしも、それを絶対なものと考えず、第一義とせず、それらのもものに執着したり、気をもんだり、煩わされたりせず、深く澄んだ心にどしんと肝を据えたところに真の人生の価値をおき、生き甲斐の根柢をおく態度であります。

この後者の態度が、牡丹は持たねど越後の獅子は、己が姿を花と見て・・という自信に満ちた生き方なのでありましょう。

己が姿を花と見て庭に咲いたり咲かせたり・・の生き方はまさに 27 歳 8 か月で散って行った晋作の後半生であり、辞世の面白きことも無き世を面白く・・(上の句)と又心ある望東尼が晋作の心中を察し下の句を住みなすものは心なりけり・・と晋作絶命直前に書き示したことは、みごとであります。

わが身の名利を求めることなく、日本の将来を夢見て、眼前の次々起こる難局、国政を憂いて一心不乱に己を火中に投げ入れ燃え尽きたのであります。

面白きことも無き世を・・主となって、主となりきって走って行ったのであります。歴史の中で今もこれからも輝いています。

無論、高杉晋作だけでなく、又長州藩の志士だけに限らず、多くの全国諸藩の志士たちが駆けて行き散って行ったのであります。

## ふるさとの味めぐり 「みほり峠 本町店」

本部・幹事 村中 正司（会員 No.706）

山口市のソウルフードは？と聞かれたら、皆様はなんと答えますでしょうか？自分が真っ先に答えるのは『けんちょう』です。子供の頃は太根のほろ苦さが苦手でしたが、今はお酒のお供で大好物です。ただ、どちらかと言えば家庭料理な為に、『けんちょう』で売っているお店は残念ながら見たことも聞いた事もないです。さて、今号からの企画でふるさとの味めぐりリレーが始まり、光栄にもトップバッターを務めさせていただきます。

自分はのどかな山口市南部の秋穂二島で育ち、高校で初めて小郡駅から汽車に乗り、山口市の高校に通学しておりました。秋穂二島には、自分が中学生の時に出来た徒歩圏内で行ける『一品香』という中華屋があった程度でした。高校時代の昼食は金曜日まで母が作ってくれたお弁当を持って行き、土曜日だけが午前中の授業終了後に同級生と道場門前を中心とした飲食店で昼食を食べていました。



思い出がある飲食店には、今は無いお店も有りますが、その中でもトップバッターとして『みほり峠本町店』を紹介したいと思います。

昭和50年(1975年)7月に、みほり峠本町店は1号店として道場門前西門を出た本町(現在もある春來軒本町店近く)でうどんと丼物のお店としてオープンしたそうで、現在は老朽化の為に閉店されました。

我々が高校に入学した昭和53年から、みほり峠も選択肢の一つとして食べに行っていました。みほり峠はどちらかと言うと女子率が高く、中央高校のスカーフをした女子学生達を見かけるとドキドキしながら遠目に眺め、お決まりの親子丼とミニうどんのセットを注文して食

べていました。当時のみほり峠は学生でも食べられるお手頃な価格設定で、卵丼とうどんの「まんぷくセット」というのもあったと記憶しています。

結局、恋は実る事なく、時は流れて20年後に仕事で広島支店に転勤になり、家族で外食にみほり峠大町店(現在は閉店)に行きました。食事をしながらふとみほり峠という名前は何処かで聞いた事があるぞと思い巡らすと、高校時代に他校の女子学生目当てに通った山口のみほり峠の名前が思い出されました。



まだスマホの時代では無く、直ぐにネットで検索は出来なかったのですが、テーブルにあったお客様アンケートに山口の道場門前を出た処に同じ名前のお店があつて懐かしいと書きました。

それからしばらくして自宅にみほり峠から社長直々に、あの店が1号店でご愛顧頂いてありがとうございますと、お手紙と食事券をお贈り頂きました。社長直々にお手紙を頂いた事とお客様の声を大切にされている企業だと感銘を受けました。

その後、あのみほり峠が山口県と広島県を中心にグループ従業員700名、年商23億の一大企業である事を知ります。どんな大企業であっても草創期があり、1号店を知る貴重な存在である事が今は誇らしく思えます。1号店の入口に水が流れ水車があったと記憶していましたが、『谷間の灯』と言う喫茶店と重複して記憶していた事が最近判明しました。最後になりますが、株式会社MIHORI様にお便りさせて頂き、みほり峠本町店のお写真をお送り頂きました。懐かしい店内の風景が蘇りました。ありがとうございました。

次は、会員番号700の山根祥二様にたすきをつなぎます。宜しくお願いします。

## レノファ山口観戦記 (11/22 Jリーグ 35節 レノファ山口×東京V in 味の素スタジアム)

～サポーターは、応援に力を込めて 心の底から叫んで欲しい～

評議員 大田 宗 (会員No.424)

時々、観戦記を書きます大田です。今回は、「いい夫婦の日」に開催される味の素スタジアムでのアウェー戦。夫婦が楽しめるイベントが東京VのHPに紹介されており、コロナ禍の環境下の中、レノファを盛り上げなければと、応援を決定(今まではアウェーでは席がなかったのだ)。

レノファ山口の情報をインターネットで探ると、なんと山口県物産展のお知らせがあるではないですか。中央区日本橋の「おいでませ山口館」で販売しているご当地特産品が味の素スタジアムで購入できますと。これは黙ってはいられない。同郷の友人に久々に会える！と、京王線の飛田給駅に向かいました。

しかし、J2 22位のレノファは、勝点27(7勝6分21敗)。今年はどうしたん？ 東京Vとは、前回、勝利している。しかし、最近、勢いが無い。見どころをインターネットで調べると、上位チームを相手に互角以上の戦いを見せながら、後半に失点を喫して敗れる。7戦勝利なしとなったことに加えて、ここ3試合はノーゴール！ 得点



力不足が大きな課題と酷評。前回対戦は2-1で勝利を収めており、再現を狙う。その2点をマークした浮田は、前節も惜しい場面を作っており、ゴールに近づいているのは確か。持ち味である強烈なシュートで、10試合ぶりにネットを揺らしたい。と、いいコメントもあるが、どうなん？ 微妙な印象。

もやもやした中、試合が始まります。ん？ サポーターの応援が非常に寂しい。ユニホーム姿の応援は、30名ぐらい。しかし、サポーターはこんな時に本気で応援するのが真髄。アウェーでも長州魂見せちゃれーや！

しかし、蓋を開けると東京Vペース。敵地でボールを奪ってから、ショートカウンターで先制すると、その後はボールを支配され主導権を握られる。守備でも落ち着いた対応をされ得点を奪えず、1点リードされて前半終了。ん～。ビールでも買って、気分転換するか。あと、山口物産展もと、席を離れて戻ってくると、なんとPK！ になっているではありませんか？ ここはキッチリ決めて同点。ここからだ！ と、完全に試合に冷めていたサポーターが熱くなってきました。少ないサポーターの中にも協

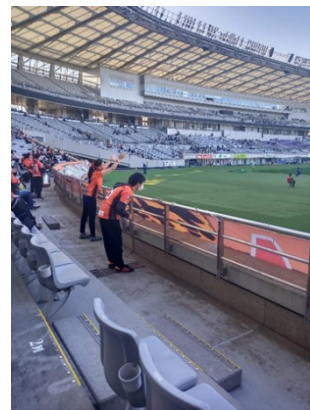
調感が生まれたのか、ピョンピョン飛び跳ねる若者が増えてきます。…

しかし、終盤、一瞬の隙を突かれて失点。4連敗を喫して最下位脱出はなりませんでした。地元クラブチームの観戦は、コロナ禍の中、久々でしたが後半に失点して敗れるという試合前のコメント通りになり、悔しい気持ちで家路につきました。昨年と、何が違うん？

選手側を批判すれば、得点力不足。司令塔がいないと、ありきたりな解説になります。が、我々サポーターの立場で考えると、熱い応援が足りないなと、感じました。選手の名前を叫ぶぐらいの応援をしないと、彼らに気持ちが届かない。

今シーズンは終わりました。山口七夕会の皆さん、勝負の年になりそうな新しいシーズン、一緒に応援に行きましょう。山口七夕会バッジを胸に！

この観戦記を考えている最中に霜田監督の今年限りの退団が発表されました。2018年から攻撃的なサッカーを掲げ、最高順位は8位。サポーターを熱くさせていただきましてありがとうございました。夢を感じさせていただきました。お疲れさまです。



12月13日(日)大宮アルディージャ戦を観戦。敗れはしましたが、一矢を報いる一点を目の前で見ることが出来たことに加え、深々と頭を下げられる霜田監督の姿が目にと焼き付きました。選手、監督、サポーターの悔しさが必ずや時期シーズンに生きるものと信じます。  
(副会長・本部長 相山)



## 山口県央連携都市圏域移住・定住プロジェクトチームの取組のご紹介

### 「山口県央7市町を制覇！暮らすように旅するオンラインツアー」

山口市役所定住促進課

山口県央連携都市圏域(山口市、宇部市、防府市、山陽小野田市、美祢市、萩市、島根県津和野町)では、各市町で移住・定住業務を所管する担当部署によるプロジェクトチームを設置し、圏域へのUJIターンの促進に繋がる事業を実施しています。

昨年までの3年間は、1月の下旬ごろに東京駅横のKITTE地下にある東京シティアイにおいて、「～やまぐちと津和野 のんびりLife～知る・見る・楽しむ2days」と銘打った圏域への移住をPRするイベントを開催していました。ところが、コロナ禍により状況が一変し、例年の時期に東京でのイベント開催の見通しが立たなくなっていました。

そこで代わりとなる取組として、急速に普及しているオンライン上のWeb会議システムを活用したオンラインツアーを企画しました。

今回企画したツアーは、地域の特産品を購入していただき、ご自宅でその特産品を味わいながら、オンライン上で特産品の生産者や地域の方々と交流していただくことで、その人に会ってみたい、その地域に行ってみたい、その商品をまた買いたいと思ってもらえる関係づくりを目指したものです。

山口市からは、阿東地域のりんご農家「村本佳寿さん」が開発されたりんごジュース「名月の想い。」と、元地域おこし協力隊の「原田尚美さん」が開発された阿東地域のりんごを使ったシードル「やまぐちシードル「UMI」」を出品しました。



お二人にはゲストとしてご出演いただき、村本さんのりんご園から赤く実ったりんごをバックに、りん

ご農家やシードル醸造家になった経緯や商品に込めた思い、開発の苦労話や今後の目標などについてお話をいただき、ツアー参加者との交流を温めていただきました。



このオンラインツアーは、令和3年2月20日(土)に2回目のツアーを計画しています。詳細が決まりましたら、メール等を通じて会員の皆様にもご案内を差し上げたいと思いますので、ご参加につきましてご検討のほど、よろしく申し上げます。

11月のツアーに参加しました。原田さんのシードルや山陽小野田の山猿を飲みながら、七市町の珍味をいただきました。自分の部屋で気兼ねなく、ツアーの途中で一休みも自由にできます。  
2月のツアー、是非ご一緒しましょう！

(副会長・本部長 梶山)



## < ピンバッジ&缶バッジ 追加募集 >

昨年6月に募集した七夕会20周年記念ピンバッジ&缶バッジの二次募集を行います。ご希望の方は、同封のチラシをご利用のうえ、お申込みください。受注発注方式となっているため、前払いとさせていただきます。何卒ご了承ください。

七夕会の交流会に、ちょうちん祭に、レノファ山口の応援に、山口ゆかりのデザインである七夕会ピンバッジ・缶バッジを是非ご愛用ください。お申込みをお待ちしております。

**1. 代金:1セット(ピンバッジ&缶バッジ)1,000円(税、送料込み)**

**2. お届け予定時期:令和3年4月の予定**

※その他詳細は同封のチラシをご参照ください。

## < 七夕会「通信」・七夕会「会報」の原稿を募集します >

**1. 表紙の書、写真、挿絵** (書や山口ゆかりの写真、挿絵等を募集します。)

**2. 山口弁で一言(山口弁再発掘)**

**3. 大使の一言**(「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介記事やメッセージを掲載します。)

**4. 私の一言**(次のテーマと要領で、皆さんからの投稿をお待ちしております。)

### ★募集するテーマ

- (1) 山口市何でもランキング(山口市の全国ランキング関連情報、山口市が始まりの物品・慣習情報など)
- (2) 山口県外の山口「市」「県」でも可です)ゆかりの地や名跡、建物紹介
- (3) 東京での同窓会活動(山口市内の小中高・大学・短大・専門学校等の同窓会活動情報)
- (4) 活動紹介(文化財保護やスポーツ選手後援会などの営利活動以外の活動紹介)

### ★字数

1,600字程度(加えて写真2枚程度を前提としております。写真の枚数によっては字数を調整します)。

### ★投稿締切

「通信」6月号掲載の場合は5月上旬、「会報」9月号掲載の場合は8月上旬事務局必着です。

### ★投稿提出先

編集長の椛山副会長・本部長(メールアドレス:[tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp](mailto:tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp))へ、電子データ(Word、テキスト形式など)でお願いします。

※七夕会「通信」は白黒印刷、七夕会「会報」はカラー印刷です。ご承知おきください。

## < 法人会員募集 >

### = 法人会員(年会費1万円)を募集しています! =

~山口七夕会では、財政基盤の確立と組織の拡大のため、法人会員を募集しています!~

○山口七夕会では、各事業年度内に原則3回、会員の皆さんに機関誌「山口七夕会会報(9月)」、「山口七夕会通信(1月&6月)」を市報「やまぐち」などの情報とともにお届けしています。

○法人会員の皆さんには、各事業年度内に1回、チラシやパンフレット等を機関誌に同封してダイレクトメールとしてご活用いただくことができます。(単純に計算しますと、切手84円\*現在の個人会員数383名=32,172円のコストが年会費1万円の法人会費に含まれることとなります。)

○会員の皆さんのご関係者やご懇意の法人様の紹介を宜しくお願いします。

※お問い合わせ、申し込みは、以下の事務局までお願いします

山口市七夕会事務局(山口市企画経営課内) 担当:伊藤 TEL:083-934-2746

## 山口弁で一言（解説・標準語訳）（本誌の3頁をご参照ください。）

2020年にヒットした「香水」を山口弁で表現してみました。出身地や年代の違いでご異論があるかも知れませんがご容赦ください。

### <イベント予告[本部(東京)]>

#### <春の講演会 & 第33回交流会>

日時:令和3年3月27日(土)11時~講演会、12時15分~交流会

場所:「インテリジェントロビー・ルコ」東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F (JR/地下鉄 飯田橋)

講演講師:米川孝宏様(会員 No.342。BRAIN SIGNAL 株式会社 代表取締役社長)

講演タイトル:「日本のDX 最前線」

☆交流会終了後、有志で1時間程度、お花見ウォーキングを実施します。是非ご参加ください。

☆☆会員を中心とした恒例の交流会です。会員でないご家族やご友人をお誘いいただくこともできます。

☆☆☆お申込みは、七夕会通信1月号に同封された出欠連絡票をご利用ください。

※コロナ禍の状況次第では中止とすることもあり得ます。お含みおまください。

#### 【編集後記】

コロナ禍で会員同士が集まる機会も減っています。そんな時だからこそ、会員の皆さんの最近のご様子ができるだけ伝わるような誌面にしたいと考えております。山口の皆さんは地元の最新の情報やご活躍されている会員のご様子を、県外の皆さんには、山口での思い出やふるさとを遠く離れた場所での同窓会活動の様子など、どんどんご投稿ください。

また、紙面でも触れましたが、インターネットを活用したオンラインツアーも流行っており、宇部のツアーの様子がNHKでも取り上げられました。七市町ツアーはもちろん、山口市を巡るオンラインツアーの情報もお届けして参りますので、編集長発信の「山口ゆかりの皆さんへ」もどうぞご利用ください。

編集長(山口七夕会副会長兼本部長) 梶山俊哉

#### 七夕会関連インターネットのご紹介

- ①七夕会ホームページ (<http://www.yamaguchi-tanabatahai.org/>)
- ②七夕会フェイスブック(会員限定です。閲覧を希望される方は、七夕会役員までご一報ください。)
- ③山口市ファンクラブ(フェイスブック) (一般に公開されているページです)
- ④メール「山口ゆかりの皆さんへ」(随時発行の山口関連情報メールです。ご希望の方は発信者である本誌編集長の梶山のメールアドレス [tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp](mailto:tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp)までご一報ください。

#### 【事務局からのご案内】

- ◎転居されるご予定のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと七夕会通信や市報等の資料が届かなくなってしまう)
- ◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

- ★山口七夕会事務局(山口市企画経営課内)  
〒753-8650 山口市亀山町2番1号  
TEL 083-934-2746/FAX 083-934-2642
- ★本部(梶山本部長)  
[tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp](mailto:tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp)